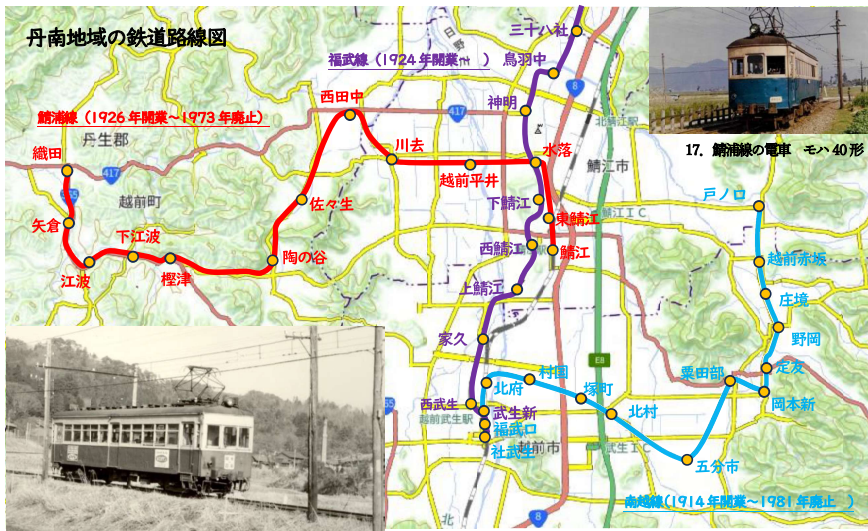




14. 織田ー水落間を走る電車

| 年号/西暦      | 鯖浦線関連                                                                    |
|------------|--------------------------------------------------------------------------|
| 大正3年 1914  | 武岡軽便鉄道、武生新ー五分市間開通                                                        |
| 大正10年 1921 | 福武電気鉄道(株)設立                                                              |
| 大正12年 1923 | 鯖浦電気鉄道(株)設立                                                              |
| 大正13年 1924 | 福武電気鉄道、武生新ー兵衛(神明)間開通                                                     |
| 大正15年 1926 | 鯖浦電気鉄道、東鯖江ー佐々生間開通<br>福武線と鯖浦線は水落で立体交差となり、鯖浦線「神明駅」が設置される                   |
| 昭和2年 1927  | 立体交差北側に福武線の「水落駅」が設置、鯖浦線神明駅も「水落駅」に変更され、両線の連絡が可能となる                        |
| 昭和3年 1928  | 佐々生ー織田間開通                                                                |
| 昭和4年 1929  | 鯖江ー東鯖江間開通、これにより織田から北陸線までの連絡が可能となる                                        |
| 昭和20年 1945 | 福武電気鉄道と鯖浦電気鉄道が合併し、福井鉄道(株)となる                                             |
| 昭和22年 1947 | 水落信号所が設置され、福武線水落駅との連絡線が開業(貨物のみ)                                          |
| 昭和34年 1959 | 連絡線が営業線として運用されるようになり、鯖浦線から福武線への直通電車が実現する。これに伴い、鯖浦線水落駅が廃止され、福武線水落駅に統合される。 |
| 昭和37年 1962 | 鯖江ー水落信号所間、廃止                                                             |
| 昭和47年 1972 | 西田中ー織田間、廃止                                                               |
| 昭和48年 1973 | 水落ー西田中間、廃止                                                               |

関連年表

【写真出典】 禁無断転載  
 1.3.12.14.16.17 福井鉄道(株)提供  
 2.4.5 実行委員会撮影  
 6.7.9.15 鯖江市まなへの館 提供  
 13 『田村今昔』1985 田村町社和会 より転載  
 8.10.11 個人蔵



15. 昭和45年頃の吉川小学校

校庭の北側に鯖浦線が走る。現在は校舎と校庭の位置が逆になっていて、鯖浦線の北側の空き地は現在の吉川公民館である。人文字の「70吉」は大阪万博開催年の1970年の意味だろうか。



16. 廃線当日の水落駅

昭和48年9月29日、水落ー西田中間が廃止となり鯖浦線が全線廃止となった。



吉川公民館 〒916-0085 鯖江市大倉町5-14-1 TEL0778-62-1020 FAX0778-62-0700 Mail SC-CC-Yoshikawa@city.sabae.lg.jp



1. 山麓を走る鯖浦線

福井鉄道鯖浦線は、今からおよそ100年前の大正15年(1926)に開業した鉄道で、私たちのふるさと吉川地区(当時は丹生郡吉川村)を横断して現在の越前町織田まで走っていました。当時は鯖浦電気鉄道という名称で、その名称からも分かるとおり、当初の計画では現在のJR鯖江駅から越前町梅浦(当時の丹生郡四箇浦村)までを結ぶ計画でした。開業後は、丹南地域の農産物や窯業品、越前海岸の海産物を運ぶ産業鉄道として、また沿線住民の足として親しまれましたが、昭和48年(1973)に全線廃止となりました。

鯖浦線の線路跡や日野川を渡る鉄橋跡はサイクリングロードとして保存整備され、通学路やジョギングコースとしても活用されています。また、川去駅と越前平井駅の跡地も保存され、当時の面影を伝えています。廃線から50年、吉川地区の田園風景を駆け抜けた鉄道の歴史に思いを馳せてみませんか？



2. 川去駅跡



3. 日野川を渡る鯖浦線



4. 鉄橋跡(平成橋)



5. 越前平井駅跡



鯖浦線廃線50年記念イベント実行委員会 令和5年(2023)10月作成



## 丹南地域の鉄道建設

明治 29 年(1896)7 月 15 日、北陸線の敦賀-福井間が開通し、丹南地域には武生駅(当時は「停車場」と鯖江駅が誕生した。当時、産業振興とともに輸送手段の拡充が求められていたが、地方の鉄道建設は進んでいなかった。そこで政府は明治 43 年に「軽便鉄道法」を制定して建設基準や規制を緩和した。このため各地で私設鉄道計画が持ち上がり、福井県嶺北地方では、越前電気鉄道(福井駅と足羽・吉田・大野郡を結ぶ)、武岡軽便鉄道(武生駅と今立栗田部・五箇方面を結ぶ)、丸岡軽便鉄道(丸岡駅と城下町丸岡を結ぶ)と、官営の鉄道(金津駅と三国を結ぶ支線)の路線が完成している。

この時期、丹生郡では武生駅から丹生郡の山岳地帯を横断し、越前海岸の梅浦に至る武浦軽便鉄道などの路線が計画されたが、いずれも実現しなかった。その後も、大正元年(1912)から同 5 年にかけて、武岡軽便鉄道からの分岐線として、村国駅から鯖江町を経て陸軍歩兵 36 連隊兵営付近に至る路線、武生町から日野川西岸を北上して朝日村西田中に至る路線が計画されたが、いずれも却下された。一方、武岡軽便鉄道本線では、大正 3 年(1914)1 月に武生-五分市間が、大正 4 年(1915)8 月には岡本新までが開通している。その後、今立鉄道株式会社と合併して南越鉄道株式会社となり、大正 13 年(1924)9 月に岡本新-戸ノ口間が開通している。

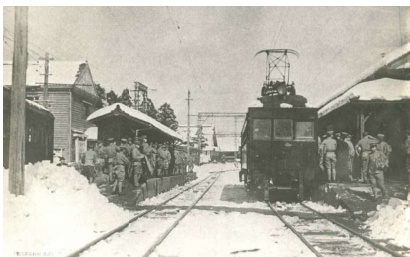
## 福武電気鉄道

第 1 次世界大戦(1914~1918)により、戦場とならなかった日本の経済は飛躍的に発展し、工業の比重が増大、鉄道施設も拡大していった。大正 8 年(1919)4 月には「地方鉄道法」が制定され、比較的短距離の都市間を結ぶ鉄道や観光・遊覧を目的とする鉄道が各地で建設された。

福井県嶺北地方でも三国芦原電気鉄道、福武電気鉄道、今立電気鉄道(後に南越鉄道)、鯖浦電気鉄道、永平寺電気鉄道が建設されている。このうち、福武電気鉄道は、武生・鯖江・福井の都市間を結び、陸軍歩兵 36 連隊の兵員輸送を目的として、大正 10 年(1921)11 月に設立、大正 14 年 7 月には武生新-福井新(現在の木田四ツ辻付近)間が開通した。その後、昭和 8 年(1933)10 月には福井駅前まで延伸して北陸本線と連絡している。



6. 明治時代の鯖江停車場



7. 福武線兵営駅(神明駅) 乗車を待つ歩兵 36 連隊兵士



8. 建設中の鯖浦線日野川鉄橋 現在の「平成橋」である。日野川右岸(東)から平井町方向を撮影したもの。



9. 工事中の鯖浦線 当時の工事作業がほぼ人力であったことが分かる。キャプションに「大正 14 年」とあるので、東鯖江-佐々生間のどこかである。

## 鯖浦電気鉄道

丹生郡を南北に縦断する福武電気鉄道に対し、東西を横断して日本海側への延伸を目指した路線である。大正 12 年(1923)4 月に設立、大正 13 年 8 月には第 1 工区の東鯖江(現在の JR 鯖江駅ループ橋付近)-佐々生間が起工、同 15 年に開通した。当初、48 人乗り客車 3 両、同付属車 1 両に対し貨物車 6 両の計 10 両編成が準備されるとともに、東鯖江から佐々生の 6 駅にはすべて側線(本線以外の貨物積み下し線)が設けられていたように、鯖浦線は貨物輸送が主目的の鉄道であったことが分かる。なお、昭和 6 年(1931)の旅客数は川去駅で 30,092 人、越前平井駅で 19,002 人であった。また、東鯖江駅、佐々生駅、上下線の行き違い駅である越前平井駅には県内初のタブレット(列車の衝突を防ぐための通票)が設置されていた。

第 2 工区は佐々生-織田間で、昭和 3 年(1928)3 月に起工し、11 月に開通した。織田より西は鯖浦自動車が運行し、約 35 分で四箇浦まで連絡していた。昭和 4 年 4 月には北陸本線鯖江駅までの乗り入れが実現し、越前海岸と北陸本線が約 1 時間半で結ばれることとなった。特に漁業関係者からは大歓迎され、早朝の上り電車は「ボテさん」と呼ばれた魚売りたちで満員となった。昭和 16 年(1941)の鯖浦線の旅客数は 88 万人、貨物は 39,979 トンで、当時の日本海側の電気鉄道では有数の規模を誇った。終戦直前の昭和 20 年(1945)8 月 1 日には、国策により鯖浦電気鉄道と福武電気鉄道が合併し福井鉄道株式会社となっている。

## 福井鉄道鯖浦線の廃線

列車本数は、昭和 23 年(1948)の記録で、朝夕で 30 分間隔、昼間で 60 分間隔であった。昭和 34 年には福武線への乗り入れが可能となり、朝の通勤ラッシュ時に織田-福井の直通電車が走るようになった。しかし、昭和 30 年代後半になると、自動車の普及により旅客数・貨物数量が徐々に減少し、昭和 37 年(1962)には国鉄北陸本線の福井-敦賀間が複線化されることとなり、並行して走っていた鯖浦線の鯖江-水落信号所間が廃止された。これは、四箇浦から北陸線へのアクセスが絶たれたことを意味し、鉄道の存続に大きな影響を与えた。その後、昭和 47 年 10 月に西田中-織田間が廃止、翌 48 年 9 月 29 日に水落-西田中間が廃止となり、47 年間にわたって沿線住民の生活と産業を支えてきた鯖浦線は惜しまれながらその幕を閉じたのである。



10. 鯖江駅 男性 2 人が立つのは現在の 1 番ホームで、その西側(写真奥)にもう 1 本ホームがあった。「鯖浦線のりば」の看板が見える。



11. 国鉄北陸線と鯖浦線 鯖江駅から鯖浦線は北へ直進、北陸線は北東(写真右上)へ分岐した。現在の旭町 3 丁目付近。



12. 水落駅 西方(写真右奥)に分岐し越前平井駅に向かう



13. 廃線時の川去駅(昭和 48 年)